

目的 和服構成には主として手縫いが用いられているが、最近では、ミシン縫いも多くみられる。前報では各種和服素材によるせん断変形と可縫性の関係を検討してきたが、今回は、和服構成に用いられる各種の縫合部が、せん断変形によってどのような影響を受けるか、また、その縫合部がどのような作用をするか等を知るために、その基礎データを求める目的で本実験を試みた。

方法 試料はゆかた地を用い、縫い方の種類はひとえ長着の背縫い、わき縫いに多く用いられる数種とした。各々手縫い、ミシン縫いによる試料を製作し、せん断実験を行った。その結果から縫い目の有無及び各種の縫い方について、せん断変形とのかかわりを考察した。

結果 せん断特性値は縫合部の縫い目の大小、縫い代の多少、縫い代の始末の方法などにより影響される。まず、背縫いの方法では、縫い目なしに比べてせん断特性値がおおむね小となり、わき縫いの方法ではその反対の傾向がみられた。手縫いとミシン縫いを比較すると、手縫いの方がその特性値はやや低い値を示し、せん断変形に順応しやすいものと考えられる。